



建築物総合環境計画概要書 新築

■使用評価マニュアル:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1) ■使用評価ソフト:「CASBEE大阪みらい 新築」2018年版 (v.1.2.1)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)中央区淡路町3丁目計画 新築工事		
建設地	中央区淡路町3丁目		
建築用途	事務所		
建築主			
設計者			
敷地面積	377.64 m ²		
建築面積	234.15 m ²		
延床面積	2,359.27 m ²		
構造/階数	S造 / 地上11階		
完了年(予定)	2027年9月		

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)

B+
BEE=1.0

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★★★★★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 83%
③上記+②以外の 83%
④上記+ 83%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q1 室内環境: 3.1
Q2 サービス性能: 3.0
Q3 室外環境(敷地内): 2.3
LR1 エネルギー: 3.5
LR2 資源・マテリアル: 3.1
LR3 敷地外環境: 3.1

ラベル表示: 有

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Qのスコア= 2.8

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.1

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.0

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア= 2.3

LR 環境負荷低減性 LRのスコア= 3.3

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.5

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.1

LR3 敷地外環境

LR3のスコア= 3.1

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネ機器を設置するとともに適切な断熱材を計画する事で断熱性能、一次エネルギー消費量に配慮した。	その他 特になし。
Q1 室内環境	外皮性能を向上させた。	Q3 室外環境(敷地内) 中高木を多く植栽し敷地内の緑化に努め温熱環境の向上に努めることで、アメニティへの配慮を行っている。
LR1 エネルギー	省エネ機器の採用により設備システムの効率化を図った。	LR3 敷地外環境 省エネルギー化により、ライフサイクルCO ₂ 排出率を抑制し、地球温暖化へ配慮した。

建築物環境性能表示 結果〔重点評価〕

総合評価BEE = 1.0

ラベル表示



環境性能		評価点
(1)CO2削減		4.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR3/ 1 / /	地球温暖化への配慮	3.6 ライフサイクルCO2排出率削減に配慮した。
配慮事項	ライフサイクルCO2排出率削減に配慮した。	

環境性能		評価点
(2)みどり・ヒートアイランド対策		3.0
みどり・ヒートアイランド対策に配慮した環境性能		概要記入欄
Q3 / 1 / /	生物環境の保全と創出	2.0 特になし。
Q3 / 3 /3. 2/	敷地内温熱環境の向上	4.0 できる限り植樹を多くした。
LR3/ 2 /2. 2/	温熱環境悪化の改善	3.0 特になし。
配慮事項	敷地内温熱環境の向上に配慮した。	

環境性能		評価点
(3)建物の断熱性		5.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 1 / /	建物の熱負荷抑制	4.8 Beim=0.76
配慮事項	建物の熱負荷抑制に配慮した。	

環境性能		評価点
(4)エネルギー削減		3.0
CO2削減に配慮した環境性能		概要記入欄
LR1/ 3 / /	設備システムの高効率化	3.4 一次エネルギー消費量削減に重点を置いた。
配慮事項	高効率の設備機器に配慮した。	

省エネルギー基準計算結果

基準適合状況	適合
--------	----

※ 外皮性能については、住宅部分が等級4(相当)以上、非住宅部分が1.0以下であること
 ※ 一次エネルギー消費量については、建物全体のBEI、BEImが1.0以下であること(新築時)
 (基準適合義務がある部分については、その部分のBEI、BEImが1.0以下であること)

外皮性能	住宅部分 (品確法等級) -	(相当)	非住宅部分[BPI][BPI _m] 0.82
一次エネルギー消費量	建物全体[BEI][BEI _m] 0.76	住宅部分[BEI] -	非住宅部分[BEI][BEI _m] 0.76